2026

法政大学

景観研究室





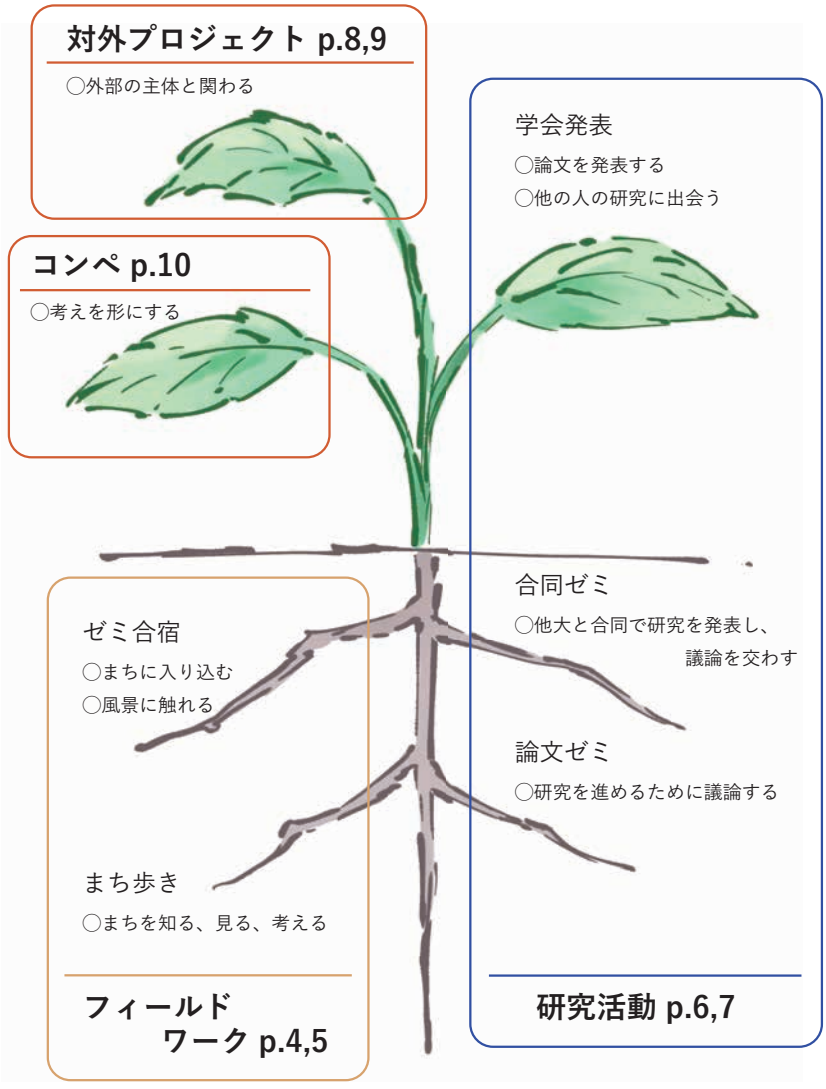


Vol.12

繋がり、対話し、形にする研究室

同期や先輩、教員、他大の研究室、地域住民など、
多様な主体と繋がり、対話し、その成果を形にする。
あるいは思考を形にし、それを材料に対話する。
景観研究室は 15 年の歩みの中で、
研究やプロジェクトを通して学外の主体とも関わる組織を築いてきました。
ここには、学年を問わず誰でも飛び込んで、知識や経験を得る可能性が
常に開かれています。

景観研での「学び」の形



葉を広げる学び

研究の他にも、
各々がやりたいプロジェクトや
コンペに積極的に参加しています。
挑戦できるチャンスが沢山あり、
学生のうちに色々な場所に
飛び込んでみることができます。

根を張る学び

フィールドワークや
毎週のゼミは、全員で。
多様な視点でまちを見る訓練や、
考えを言語化して対話する訓練を
繰り返し、確かな土台を築きます。

教員紹介

景観研を支える３名の先生方を紹介します。
特に卒論生･修論生はいずれかの先生を主担当教員として、
サポートを受けながら１年間研究を進めます。



福井恒明教授

○経歴
清水建設株式会社
→東京大学大学院 工学系研究科社会基盤学専攻 助手・講師
→国土交通省 国土技術政策総合研究所 主任研究官
→東京大学 都市持続再生研究センター 特任准教授
→法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科 教授
○仕事内容
大学での教育研究の他に，河川・橋・公園・駅などの
公共事業のデザイン検討，景観に関する委員など

○生で見て感動した場所を一つ教えてください！
「イタリア・シエナのカンポ広場」
学生時代の設計演習でよい広場の事例として教わってから 30 年後、ようやく現地に行くことができた。丘を登り、中世ヨーロッパ都市の狭く曲がった道を歩いた末に目の前に突然広がる扇型をしたスリバチ状の広場。スケール感も広場の勾配もまわりの建物も想像以上によかった。今は美術館になっているシエナ市庁舎がダムのように谷をふさぐ形になっていて、地形を活かした広場だということもわかった。

トピック！

学生からみて「福井さん」ってどんな人？？

○雑談の時はフランクで、
　研究の時はしっかり指導してくれる人。
○入る前は話すの緊張してたけど、
　今はとても話しやすい！
○学生一人一人をよく見ていて、親身になってくれる！



佐瀬優子さん／ EA

○経歴
東大社会基盤専攻
→ダルムシュタット工科大学
→名古屋大学環境学研究科特任助教
→株式会社 EAU，早稲田大学非常勤講師
→アトリエ言景，法政大学 EA
○仕事内容
・アトリエ言景：リサーチ・取材・ライティング・
　翻訳・企画運営など
・（一社）計画・交通研究会 事務局
・地域活動あれこれ

○生で見て感動した場所を一つ教えてください！
「ミヒャエル・エンデの墓」
ミュンヘンの Waldfriedhof（森林墓地）にあります。
在独中、何度も訪れた大好きな場所ですが、中でもエンデの墓は、何度見ても感動。
大きな本を開いたような形の墓石に、作中のカシオペイア（亀）の像が添えられた、文字通り物語から出てきたようなお墓です。亀の甲羅の「Habe keine Angst(恐れるな)」の文字。それを眺めつつ、しばらく佇んでいると、なんだか時空が歪むような気がしたものでした。

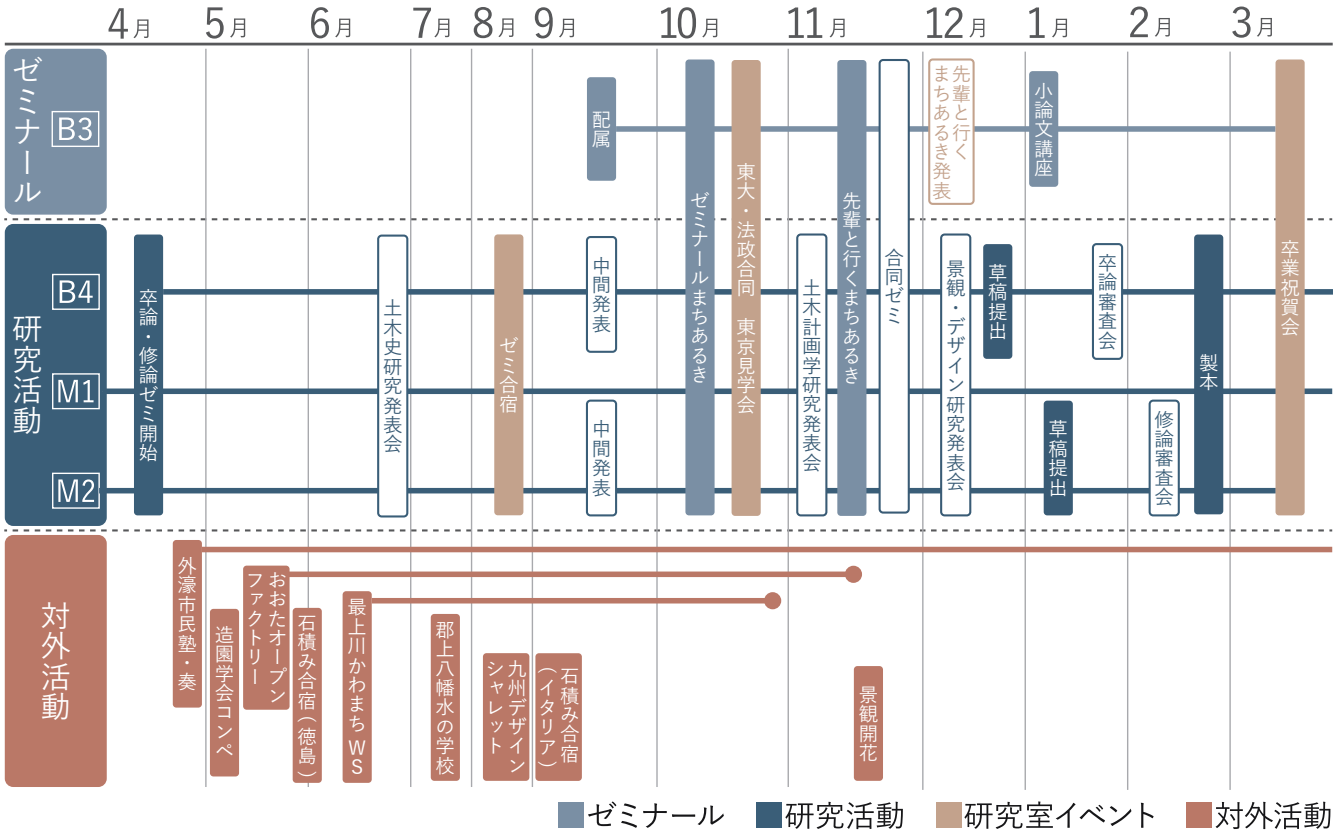


荻原知子さん／教育技術嘱託

○経歴
東大文III
→東大社会基盤
→ STUDIO4°C
→ TrussHouse/ 東京大学社会基盤学専攻研究生 /
　法政大学都市環境デザイン工学科兼任講師
○仕事内容
アニメーション制作、夜更かし

○生で見て感動した場所を一つ教えてください！
「雲南省羅平の菜の花畑」
春に、東京都相当の面積のカルスト地形を覆う、菜の花畑。
山村慕鳥『風景　純銀もざいく』を体現するスケール感。
中国と付き合うとあり得ないことが多いんだが、このスケール感を体験すると、あり得ないことがあり得る国だなと思う。
中国の自然（農村）景観には、アスファルトに覆われた、かつ土が柔らかい日本では感じることがない、大地の力がある。

景観研の年間スケジュール



フィールドワーク

「どんなまちを見て、何を感じたか，考えたか」
アンテナを張ってまちを観察したその経験が、景観を考えるための土台になります。
景観研で毎年開催しているまち歩きやゼミ合宿の、2025 年度の成果を紹介します。

ゼミナールまちあるき

◯横浜まちあるき

アメリカ山公園から元町商店街、汽車道を経て桜木町まで歩き、高速道路や居留地境界の歴史、水と地形の関係を辿りました。古きを活かし新しきを取り入れる横浜ならではのまちづくりを体感する見学会となりました。


建物の作りにも着目


道に設けられた滞留空間


大岡川沿いを歩きながら視察

◯渋谷まちあるき

日建設計の長谷川隆さんをゲストに迎えて渋谷再開発見学会を行いました。渋谷フクラスから渋谷ストリーム、ヒカリエまで、谷地形を活かしたアーバンコアや歩行者デッキによる回遊性向上の取組を設計者の立場から解説いただきました。縦と横の動線が織りなす渋谷ならではの複雑で奥深いまちの姿を体感できた見学会となりました。


長谷川さんによる解説


渋谷サクラステージ


渋谷川

先輩と行くまちあるき

先輩と行くまちあるきは研究室配属後最初の発表イベントです。
修士と学部生が 6-7 名のグループに分かれ、自ら見学先やルートを企画してまちを歩きました。見学地はそれぞれの学生がまちあるきのテーマや興味のあるエリアをプレゼンして決定しました。事前に見学先の概要や歴史・文化を調べ、情報を共有することにより、現地での理解が一層深まり、その場での発見や議論も盛り上がります。
見学後には 3 年生が見学の成果を PowerPoint にまとめて発表しました。先輩との交流を深めながら企画・調査・発表の一連の流れを学ぶ見学会であり、景観研のまちの見方を身につける入り口にもなっています。



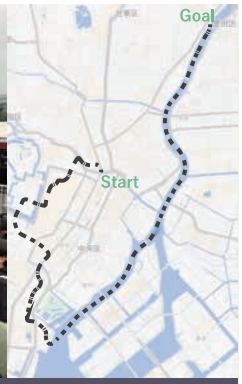
班ごとにまちを歩く


後輩の前で発表

東京見学会

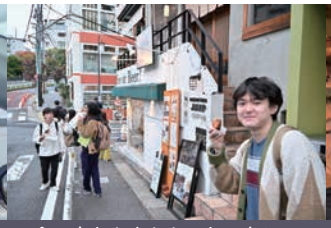
―東京の近代化遺産を巡る―
東京見学会は東大景観研と共同で開催しており、両研究室の修士 1 年生が主体となって企画・解説を行います。普段見慣れた東京の景観が持つ歴史的重層性を深く学ぶ貴重な機会となっています。
2025 年度は日本橋から丸の内、銀座、汐留、東京港を経て、水上バスで隅田川を遡り浅草へと向かいました。
日本銀行本店や東京駅といった歴史的建造物から、泰明小学校や美しい復興橋梁群まで、近代化の歩みを体感し、時代ごとの都市計画の思想や美観論争の足跡に触れることができました。


水上バスの船着場で解散



見学ルート


風景を写真に残す


食べ歩きもまちあるきの楽しみ


見学会後の懇親会で距離を縮める


福井さん Birthday!!

ゼミ合宿

ゼミ合宿は景観研究室の最大のイベントです。学生が主体となって企画・運営を行います。
単なる観光旅行とは違い、事前学習や先生・現地の方の解説を聞きながら、専門的な視点から風景を読み解きます。

5月
候補地プレゼン大会

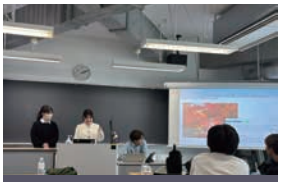
6月
しおり作成

7月
ゼミ合宿ゼミ

8月
ゼミ合宿

◯候補地プレゼン大会

ゼミ合宿で訪れる場所は、毎年学生の提案の中から決めます。
行きたい場所ごとにチームを結成し、候補地プレゼン大会を通して提案を行います。学生が提案した候補地の中から、多数決によって候補地を決定します。2025 年度は山口県に決定しました。


行きたい場所をプレゼン



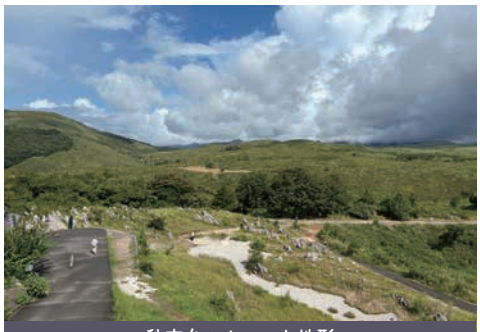
多数決を勝ち抜いた山口案

◯ 2025 ゼミ合宿「山口県」

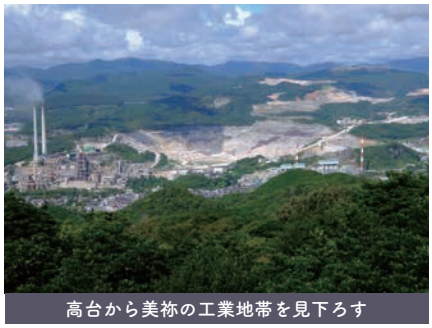
2025 年度は 9 月 3 日から 5 日にかけて山口県に訪れました。2 泊 3 日で、下関市から角島、長門市、美祢市を巡り、山口県西部の都市・自然・インフラを幅広く視察しました。関門橋や角島大橋では、土木構造物の構造や機能、周辺景観との関係について学びました。また、門司港レトロでは歴史的景観の保存と活用、長門湯本温泉では長門湯本温泉旅館協同組合の解説により地域一帯での管理運営による地域資源を生かしたまちづくりの理解を深めました。さらに、美祢市ではジオガイドの方の案内のもと石灰岩地帯を視察し、石灰石産業が地域の歴史や産業、交通インフラの形成に与えた影響について学びました。


門司港駅


福井さんの解説で舗装を観察


秋吉台のカルスト地形


長門湯本の川沿いを歩く


高台から美祢の工業地帯を見下ろす


重安駅でジオガイドの方の解説に耳を傾ける


ブルーウィングもじ

研究活動

毎週木曜日に全員で論文ゼミを行い、論文生の B4 と M1 は隔週で研究の進捗状況を発表します。
研究は一人ではなくみんなで進めていくもので、その成果は研究室全体としての共有財産になります。
そのため、日々の作業、ゼミでの発表、そして議論を通して研究を深め、論文を作り上げていきます。

景観研の研究系譜図（2021~2025）

		2021	2022
景観論		●加計 幸陽 「トポク」マニアの土木構造物鑑賞に関する解釈	
地域史・土木史	都市のイメージ形成		●萩原隆太 都市形成過程と地域イメージからみる盛岡市中心市街地の地域らしさ ○阿部花奈子 堀川筋 4 橋の橋梁デザインと住民のエリアイメージの関係
	都市空間利用史	○森戸 愛実 『風俗画報』に現れる明治後半～大正初期の都市風景や民衆の関心	○長田奈々 自治会会報にみる戦後の集合住宅における住民の集住意識の変遷 ―高島平団地会報誌『たかしまだいら』を対象に― ○安孫子翔 1960 年代から 2010 年代の東京都心部における公開空地の計画方針と空間特性
	名所	●相澤 航平 『名所江戸百景』に描かれた江戸の周縁領域	
	地域史	●藤田 景 千代田区を対象とした橋詰空間の変遷	●原田真央 近代以降の隅田川右岸中小河川における橋詰広場の変遷 ●齋藤浩志郎 佐潟周辺における地域活動の実態分析 ●志村遥奈 近世以降の佐原における地域構造の形成
計画論	文化的景観	●堀越 義人 最上川舟運と河川工学的特性の関係 ○福井 昂平 重要文化的景観選定区域内の公共事業における設計協議の課題と要因 ○三木 歩蒿 古代から近世の佐原周辺における地域構造と交流	○鴨潤矢 最上川無堤区間百目木地区における住民の水害対応に関する水理学的検証 ○川上健太 重要文化的景観選定範囲内の公共事業設計協議の体制と運用に関する事例分析
	みなとまちづくり	○前澤 健心 みなとまちづくりにおける港湾と背後地域の連携に関する研究	○大旗望 みなとまち敦賀・七尾における港湾と背後地域の連携
	水辺を生かした都市空間構造		○吉本慎 明治前期の東京における水系と水利用
	オープンスペースの利用実態と多様性		○松岡明佳里 都市公園再整備における利用実態変化 ―千代田区東郷元帥記念公園を対象として―
	復興事業の計画思想	○坂井 結子 統合型の防災集団移転促進事業における地域コミュニティの形成過程とその特徴	
	水害被災地域の市街化過程	○渡邉 真由 水害被災地における市街化の経緯と要因－千曲市の農地転用に着目して－	
設計論	公共事業のデザイン導入		○石川拓磨 現代土木プロジェクトにおける歴史的条件の形成プロセスに関する研究
	公共事業におけるデザイン思想	●田邉 喬太 橋梁事業における大野美代子のデザイン思想の具現化 ○中村 颯汰 土木学会デザイン賞受賞作品の設計意図及び講評と供用後の変容 ○山田 莉緒 関連制度とデザイン技術からみた街路空間デザインの展開	
その他			

学会発表

研究成果は研究室内でとどまらせるのではなく、
学外へ出してこそ成果として意味を持ちます。
そのため、学会での口頭発表やポスター発表などを通して
成果を世の中に発信しています。景観研の学生は主に
「景観・デザイン研究発表会」、「土木計画学研究発表会」、
「土木史研究発表会」で発表を行っています。


学会での発表


学会会場で集合写真


他大の学生と交流



普段の研究室風景　ときには飲みながら深い話を　先輩と研究の相談　卒修論・中間発表

	2023	2024	2025
		○片桐泰知 写真発信手法の時代変化に応じた風景写真描写の変遷 ―明治から現代の浅草を対象に―	
景観価値	●山田莉緒 沼津市中心市街地の都市形成過程と景観価値に関する研究	○直川裕希 大江町左沢地域住民の最上川に関する原風景の形成	●車谷綾花 今治市中心市街地における住民の景観価値認識 ―都市形成過程と地域社会属性に着目して―
		こどものまち	●横江玲奈 まちに対するこどもの認識形成に関する基礎的研究 ―東京都大田区の小学生を対象に―
	●福井昂平 東京都心部における橋詰空間の性状と整備・管理方針		
	●前澤健心 首都圏における「市民参加型広場」の提供と利用の事例分析 ○辻玉実 『区民の声』にみる公共空間に対する市民および行政の意識に関する研究	○津田蓮太 歌舞伎町シネシティ広場のデザイン変遷とその社会的背景	○山本一沙 公共空間にかかわる公徳意識の民衆受容 ―明治期の雑誌・新聞記事を対象に―
	○宋嘉豪 「新鐫海内奇観」の挿絵における名所描写分析	●大旗望 江戸名所図会の挿絵描写に着目した江戸の景観構造分析	
地域コミュニティ	○車谷綾花 地域コミュニティの構造と差し込み型防集事業の計画プロセスの関係 ―大船渡市越喜来地区を対象として―	○土田涼華 佐原における近世自治組織「町内」由来の地域コミュニティの活動	●新井奏音 社会関係資本としての佐原の大祭 ―山車行事への関与と地域コミュニティに対する意識の関係―
		●川上健太 郡上八幡における伝統的水利用施設群の管理変遷	●宋嘉豪 古写真集「躍進の佐原」にみる1930年代の佐原の都市空間と社会像
	○新井奏音 東京都大田区における地域史料の活用と地域史共有の実態分析	○池内勇樹 都市河川の環境改善に向けたコミットメントの全体像に関する研究 ―清流復活事業以降の呑川を対象として―	○岸本真彩 戦前の佐原における交通の近代化と産業の変化
	●神山謙悟 重要文化的景観の保全と治水計画の両立を図る堤防計画プロセス ―山形県大江町百目木地区を対象に―	●鴨潤矢 重要文化的景観を保全する氾濫許容型治水計画 ―最上川・大江町百目木地区を対象に―	○渡邊優斗 四万十町小野集落における河川区域外堤防の建設経緯と維持管理
			●辻川大心 みなとまちの空間構成に着目した港と中心市街地の一体性に関する定量的評価手法の提案
	●森啓仁 街路構成に着目した港湾と背後地の連携分析 ―みなとまち敦賀・七尾を対象に―	○岩田健吾 街路網形態に着目した港町の一体性分析	○江口友彌 港湾と都市の指標を用いたみなとまちの類型化
	●渡邊真由 河川景観の形成過程と持続可能性に関する研究 ―隠岐の島町西郷港周辺地区を対象として―		●辻玉実 肱川中下流域における沿川土地利用の変化と公共事業からみた要因分析
			○山口朋大 東郷元帥記念公園再整備による利用者の行動変化
交通・歩行	○中村仁哉 「散歩の達人」にみる散歩の楽しみとしてのまちの構成要素に関する分析		●中村仁哉 都市と交通の計画思想にみる歩行の位置づけの変遷
	氾濫解析	●江面優大 氾濫流解析による霞堤の機能分析 ―千曲市杭瀬下地区を対象として― ○一柳怜美 川沿い土地利用の合理性に関する水理学的検証 ―四万十町小野集落を対象に―	●山口翔太郎 霞堤からの溢水を想定した治水・土地利用計画 ―千曲市千曲川右岸地区を対象に― ○迎侑大 洪水シミュレーションによる四万十川中流域集落の土地利用分析
	○横江玲奈 千曲市杭瀬下地区における農地の宅地化による水害リスクへの影響分析	居場所論	○大橋俊亮 現代の街路空間が有する居場所としての性質 ―丸の内と歌舞伎町を事例に―
		○福岡美智 まちづくり活動における「まちの歴史」の認識と活動への展開	
	●福井新 密集市街地の防災性向上に資する「余白」の創出デザイン ―墨田区鐘ヶ淵地区を対象として―	まちづくり主体の意識醸成	○田口幸樹 住民自治活動における水利用施設管理の位置付け ―都上八幡北部を対象として―
	○辻川大心 インタレスト分析による住民参加型協議プロセスの評価 ―東郷元帥記念公園改修設計を対象に―	○稲垣舞子 住民参加による公園デザインの検討過程 ―千代田区東郷元帥記念公園改修計画を対象に―	○安川陽南子 東郷元帥記念公園改修計画における設計要素の意思決定プロセス
	○後藤沙綾 地方都市の都市計画推進における国民体育大会開催の影響		

合同ゼミ

合同ゼミは、年に１回、他大学の研究室と合同で行うゼミです。
2025 年度は早稲田大学、東京科学大学の学生を法政大学に迎えて開催しました。
普段の論文ゼミは自分の研究内容を知っている法政景観研のメンバーの中で発表しますが、合同ゼミでは研究内容を知らない相手に対しても伝わるように発表しなくてはなりません。その意味で合同ゼミは、論文における背景や問題意識から結論までのストーリーを改めて見つめ直し、かつそれを的確に伝える力を磨く貴重な機会となっています。



他大の学生と先生の前で発表

対外プロジェクト

景観研では各学生が様々なプロジェクトに参加し、他大の学生や地域の住民、あるいは行政など、多様な主体と関わり合っています。研究室配属まではなかなか得られない、「考え方や立場が異なる外部の人々」と関わる経験を沢山積むことができる、対外プロジェクトの一部を紹介します。

外濠市民塾

都心の貴重な水辺空間である江戸城外濠を将来に活かすため、大学・高校・民間企業などが集まり、地域の方々と共に知識共有や将来像の議論およびその展開を行う活動です。
法政大学・東京理科大学・東京科学大学・日本大学などの学生が中心となって、まちあるきの実践、水辺空間を活用したイベントの企画・運営、外濠に関する認知度向上のための情報発信などに取り組んでいます。
2025 年度はこれらに加えて、外濠の水辺再生事業に関する都民向けの説明会で案内役を務めた他、専門家による講義やフィールドワークを行う外濠市民塾勉強会にも参加しました。


外濠市民塾勉強会でディスカッション

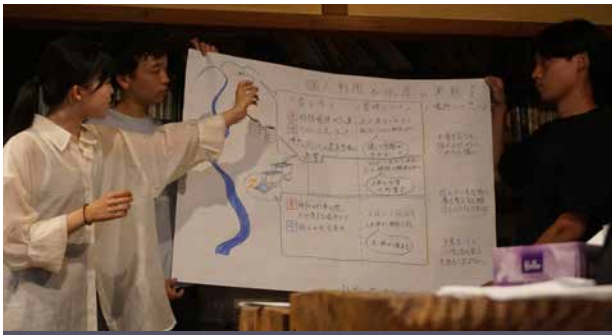

他大の学生とまちあるき


慣れ親しんだ外濠の風景を再発見する

郡上八幡水の学校

2013 年に設立された「郡上八幡水の学校」は、岐阜県郡上市八幡地区の魅力や歴史について、「水のまち」を学び・伝える市民団体です。
景観研究室は、オープンキャンパスの開催、調査やイベントの運営などに参加しています。「水の学校オープンキャンパス」では、水利用の実態について疾走調査を行い、水のまちとして地域全体が水をどのように管理し、どのように使っているのか、どのような取り組み・体制があるのか明らかにしました。
また、郡上踊りに参加し町の人と踊ったり、アマゴつかみのイベントを運営し、まちの子供たちや郡上の水と交流したりと、東京ではなかなか味わえない自然や地域との関わりは非常に貴重な体験でした。


水と緑に触れてその価値を実感する


疾走調査の成果をグループごとにまとめて発表


アマゴつかみではまちの子供たちをサポート


子供たちと交流@郡上


外濠市民塾の活動を紹介


おぼんカウンターで外濠ごはん


OOF メンバー打ち上げ

おおたオープンファクトリー

伝統的な町工場が集積する大田区のイベント「おおたオープンファクトリー」において、町工場の魅力を分かりやすく発信するプロジェクトに取り組んでいます。実際に現場を訪問して職人の方々へインタビューを行い、専門的な技術や機械の凄さ、現場の熱気を親しみやすく紹介する展示物を制作しています。また、イベント当日は拠点会場にて、来場者が直接モノづくりに触れられるワークショップを企画・運営します。
学生ならではの柔軟な視点と行動力を活かし、来場者と町工場の皆様とをつなぐ架け橋となり、活発な交流を創出します。


イベント拠点で工場道具紹介の展示を作成


町工場の技術や苦労を学ぶ


来訪者に工場を解説

最上川かわまちづくりワークショップ

山形県大江町は、かつて最上川舟運の中継地として栄えた景観が国の重要文化的景観に選定されています。令和 2 年の洪水を契機に堤防が計画され、文化的景観との両立が求められました。
景観研では、その検討会に研究室として協力してきました。
2024 年度は、住民の方々から町の好きな場所や思い出、気になる場所などを聞き取ってスケッチに整理し、まちの将来像を提案しました。
2025 年度は、学生がファシリテーターとなり、住民の方々と最上川沿いのエリアの使い方について議論しました。
活動を通じて、行政、コンサルタント、住民がどのように連携してまちが計画されていくのか肌で感じ取ることができました。


学生がファシリテーターとなってかわまちづくり検討会を進行


豊かな自然が残る景観


住民の皆さんと現地を歩く

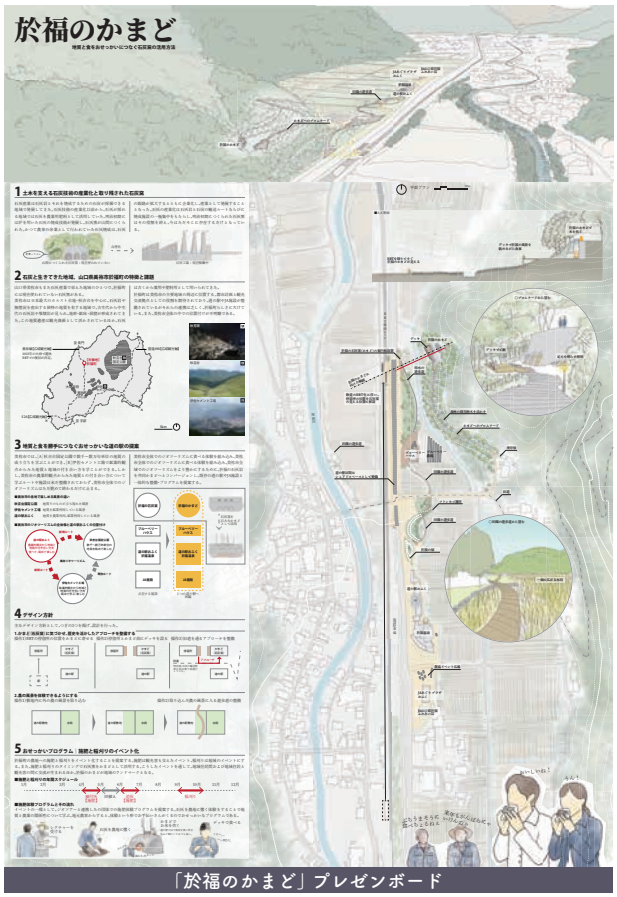
コンペ

コンペは、大学・大学院の授業や景観研での活動を通して身につけた「まちを考える力」を使い、課題に対して提案を考え、それを形にする場です。
単独で参加する人もいれば、景観研の学生同士や、他大の学生、社会人と組んで参加する人もいます。

景観開花。

「景観開花。」は、景観研の学生が毎年参加しているコンペです。
2025 年度のテーマは
「CONVERSION Doboku - 時間、空間、転換。-」

景観研からは 2 作品が特別協賛企業賞に選ばれました。



「於福のかまど」プレゼンボード

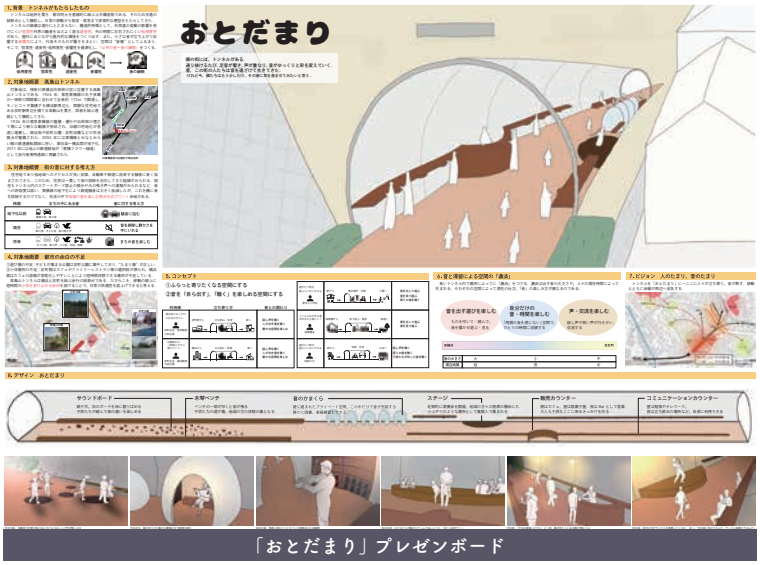
於福のかまど
～地質と食をおせっかいにつなぐ石灰窯の活用方法～

新井奏音（`25 M2）

石灰は古くから肥料として使われていました。
石灰産業の発展を支え、その役目を果たし終えた石灰窯を
「地質と食をつなぐかまど」として活用し
地域住民間及び地域住民と観光客の交流を生む
おせっかいな道の駅を提案しました。
コンバージョンというテーマに対し
言葉から紐付けて連想していくというアプローチを試み、
提案を組み立てていきました。

おとだまり

片桐泰知（`26 M2）
戸川由聖（`26 M2）
大橋俊亮（`26 M1）



「おとだまり」プレゼンボード

横浜市の高島山トンネルを対象とし、
暗く閉鎖的なトンネルを
「音」をテーマとした地域のたまり場へと転換する
デザインを提案しました。
地域に気軽に立ち寄れるたまり場が少ないという
課題に対して、
子どもたちが遊ぶ音、カウンターでの話し声、
通行人の足音といった日常の何気ない音を、
自ら生み出し、聴き、視覚的にも楽しめる空間を
創出するものです。

学生の本音を聞いてみた！

Q. 入って気づいた景観研のいいところは？

- 研究に関する相談も、日頃の雑談も、先輩に気兼ねなく話しかけられる雰囲気。（B4）
- ワークショップなどを通じて地域に入り込んだ研究ができること。（M2）
- 福井先生が仕事をしている場を間近に見ることができ、現場への解像度が高くなること。（M2）
- 同じ分野を専攻する他大の学生と関われるので、進路や活動や研究など様々な面で、研究室内にいるだけでは得られない視点を持てること。（M2）

Q. どのくらい研究室にいる？

- 週に４日くらい。（M2）
- 平日は大体。（M2）

Q. どのプロジェクト・活動が楽しかった？

- 郡上八幡水の学校
  アマゴのつかみ取りで体を動かして子供たちと遊んで、調査では地域の方にお話を聞いてくことで郡上八幡の歴史を知ることが出来て、早稲田の方々とも関われて、盛りだくさんだった！（M2）
- 最上川かわまちづくりワークショップ
  地域の人の声を分析すること、そして分析結果をどのように形にするのかを考えるのが楽しかった。（M2）

Q. 景観研にはどんな人が多い？

- 妥協したくない人、強いエネルギーを持ってる人。（M2）
- 面倒見がいい人が多い！（M2）
- いろんな人と関わろうとしている人。（B4）
- 意見が食い違ったとしてもちゃんと議論をする人。（M2）

Q. 入る前後での自分自身の変化は？

- 感覚的な価値を言葉にして周りの人に共有できるようになった。（M2）
- 「とりあえずやってみるか」と考えることが増えた。（M2）
- まちを歩く時に違和感を探すようになった。（M1）
- まちを歩く中でよく写真を撮るようになったり、気になる場所やものについて過去の航空写真などをすぐ調べるようになった。（B4）

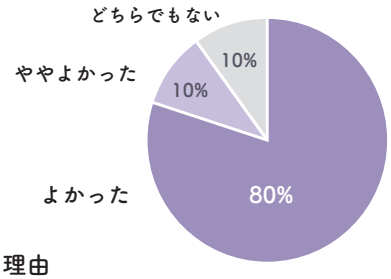
Q. 入って辛かったことは？

- ゼミの発表週は割と大変です、、（B4）
- とくにない！
  疲れたりうまくいかなくて落ち込むことはあるけど、辛くはない。振り返るとどれも自分に必要な経験だったと思うから、これからもきっとそう。（M2）

Q. 景観研の嫌いなところは？

- 知識がないと話がわからなくなること。（M1）
- パッと思いつかないからないのかも。（M2）

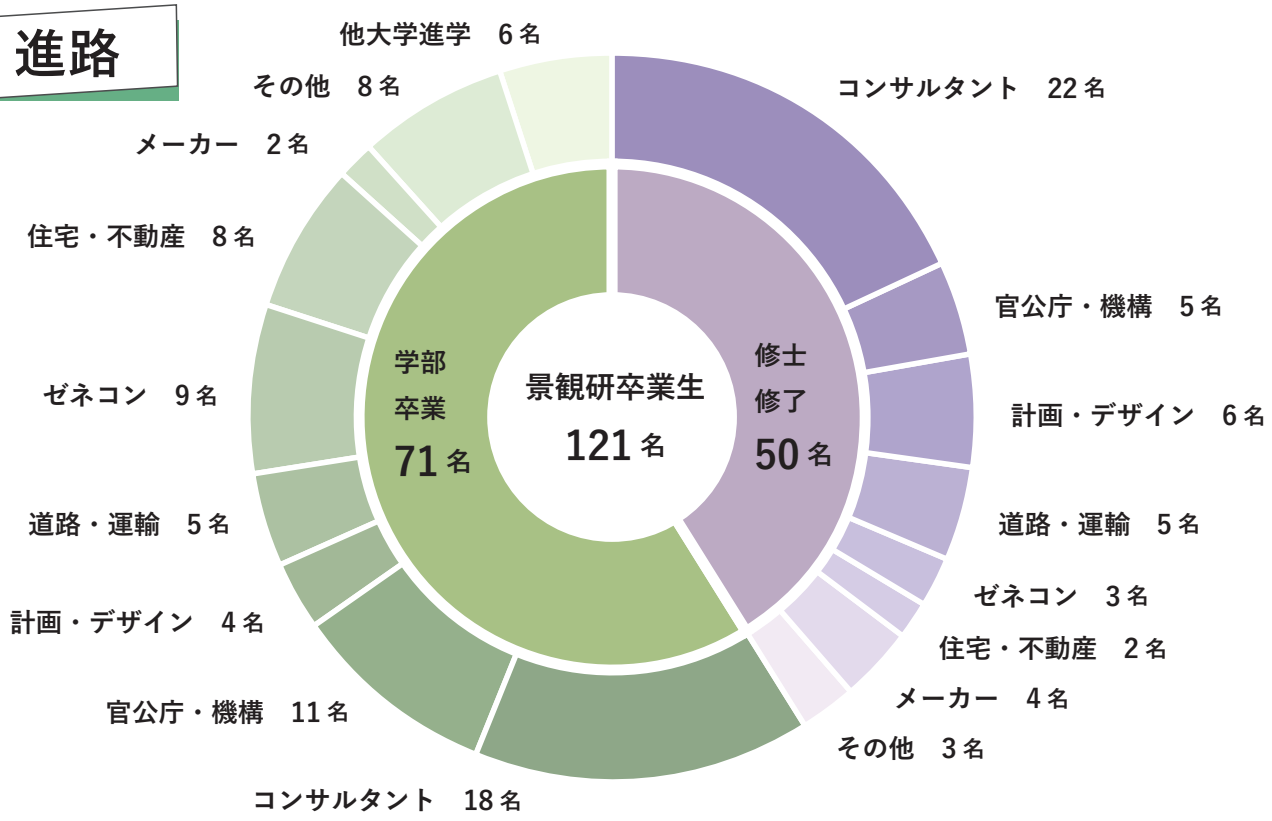
Q. 景観研に入ってよかった？



よかった理由

- 物事を多様な視点から捉えられるようになったから。（M2）
- ３年間自分のやりたいことを全力でやれた研究室だったから。（M2）
- 学生間、学生・先生間の人間関係が密だから。（M1）

進路



業種	学部卒業	修士修了
コンサルタント	日本工営都市空間、中央コンサルタンツ、八千代エンジニヤリング、セントラルコンサルタント、日本エンジニアリング、ジオサーチ、総合技術コンサルタント、建設技術研究所、東急設計コンサルタント、東京建設コンサルタント、オリエンタルコンサルタンツ、国際開発コンサルタンツ、中日本ハイウェイ・エンジニアリング東京、復建エンジニヤリング、三井共同建設コンサルタント、トーニチコンサルタント	東京建設コンサルタント、八千代エンジニヤリング、日本工営都市空間、昭和ホールディングス、オリエンタルコンサルタンツ、オオバ、パシフィックコンサルタンツ、アイ・エス・エス、大日本ダイヤコンサルタント、中央復建コンサルタンツ、建設技術研究所
住宅・不動産	大和ハウス工業、住友不動産シスコン、一条工務店、タカラレーベン、三菱地所リテールマネジメント、NTT 都市開発ビルサービス、東急コミュニティー	大和ハウス工業、JR 東日本都市開発
官公庁・機構	草加市、千葉市、板橋区、大田区、横浜市、さいたま市、千葉県、茨城県、静岡県、福岡県、都市再生機構	流山市、富山県、都市再生機構
計画・デザイン	類設計室、乃村工藝社、DO 設計、Tetor	都市環境研究所、小野寺康都市設計事務所、ハートビートプラン、日本設計
道路・運輸	中日本高速道路、西武鉄道、小田急電鉄、JR 東海	東日本高速道路、京成電鉄、京王電鉄、東武鉄道
ゼネコン・建設	鹿島建設、大成建設、鉄建建設、五洋建設、前田建設工業、戸田建設、三井住建道路	三井住友建設、鉄建建設、株式会社フジタ
メーカー	三井化学東セロ、LIXIL	東芝、ヨシモトポール、クボタ、東邦レオ
他大学進学	東京科学大学大学院、東京都立大学大学院、東京工業大学大学院、熊本大学大学院、Politecnico di Milano	
その他	東京ガスリックリビング、Sony Music Artists、オリエンタルランド、富士通、Ridgelines	バレエダンサー・バレエ教室講師

法政大学
景観研究室

SNS

Website　Instagram　Facebook

2026 年 7 月発行
発行者
法政大学　デザイン工学部　都市環境デザイン工学科
法政大学大学院　デザイン工学研究科　都市環境デザイン工学専攻
景観研究室
〒 102-8160　東京都千代田区富士見 2-17-1

編集者
景観研究室 14 期生
大橋俊亮
加藤龍一
田口幸樹
迎侑大
山口朋大
山本一沙